

転換期の皇位継承 キサキからみた幼帝の登場

講師 国士舘大学准教授 仁藤智子先生

『伴大納言絵巻』のモチーフとなった応天門の変。9世紀中葉の政界を揺るがした疑獄事件の背景に、幼帝として即位した清和天皇をめぐるキサキの攻防があつた。平安初期にキサキの序列化が進み、后位が確立する。一方で淳和皇后正子を最後に、仁明天皇以降、醍醐天皇に至るまで、皇后は1世紀ほどおかれなくなる。史上初の幼帝清和を支えたのは、祖母の皇太夫人順子であった。妻后から母后へというキサキの変化から、古代日本の転換期となった平安初期の皇位継承を俯瞰してみたい。

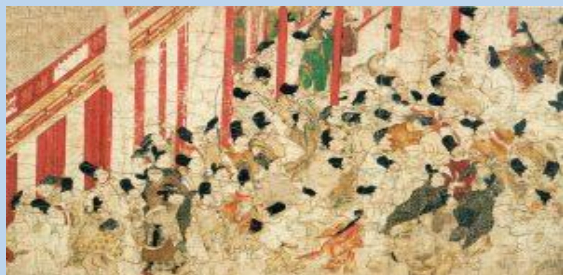


講師プロフィール：国士舘大学文学部史学地理学科考古・日本史学コース准教授。

お茶の水女子大学大学院人間文化研究科比較文化専攻を単位取得退学。博士(人文科学・お茶の水女子大学)。

日本学術振興会特別研究員(PD)として、東京大学にて研究に従事。お茶の水女子大学大学院助手(文部教官)、放送大学大学院客員准教授などを経て、2014年より現職。1995年社団法人桜楓会賞を受賞。

著書：『平安初期の王権と官僚制』（吉川弘文館2000年）、『日本古代史の方法と意義』（共著、執筆論文：「平安初期における王権の多極構造—皇位継承と王権内の女性の位相」勉誠出版2018年）、論文：『女帝の終焉—井上・酒人・朝原三代と皇位継承—』（吉川弘文館「日本歴史」2018年）、『平安初期における后位の変質過程をめぐって—王権内の序列化とその可視化—』（国士舘人文学6 2016年）、『応天門の変と「伴大納言絵巻」』（国士舘史学第19号 2015年）など多数。



「伴大納言絵巻」部分、風上の会昌門に集まる官人



応天門炎上 (出光美術館蔵)

- | | |
|---------|---|
| 【日 時】 | 2018年12月8日(土) 午後2時～午後4時 (受付は午後1時30分より) |
| 【会 場】 | 横浜市歴史博物館 講堂 市営地下鉄 センター北駅 下車徒歩5分 |
| 【募集人員】 | 170名 (応募者多数の場合抽選) |
| 【参加費】 | 500円 |
| 【申込方法】 | 往復はがき(一人一通)
①講座名 ②〒住所 ③氏名(ふりがな) ④電話番号 ⑤どこで開催を知ったかを明記の上、
下記へお申し込み下さい。 |
| 【送 り 先】 | 〒231-0062 横浜市中区桜木町1-1-56 クリーンセンタービル5F
横浜市民活動支援センター「レターケースN.35 横浜歴博もりあげ隊」 |
| 【申込締切】 | 2018年11月24日(土) (当日必着) |
| 【問合せ先】 | 横浜歴博もりあげ隊事務局 TEL080-4896-4677 (10月11日より使用可9:00~17:00) |

横浜歴博もりあげ隊ホームページ <https://sites.google.com/site/moriage20/>

主催：横浜歴博もりあげ隊

共催：横浜市歴史博物館

後援：横浜郷土史団体連絡協議会